

京都市 観光案内標識アップグレード指針

20131205 改訂

はじめに	はじめに	2
	1 目的とキーワード	3
	2 課題	4

ガイドライン

1 サインシステム	1 サインシステムの考え方	6
	2 計画するサインの種類	7
	3 エリア別の案内, 誘導パターン	8

2 配置計画	1 配置の考え方	11
	2 エリア別の配置基準	12
	3 配置の方向の基準	13

3 情報計画	1 情報量についての考え方	15
	2 多言語対応の考え方	16
	3 表記の基準	18
	4 公共交通サインの考え方	24

4 デザイン	1 デザインの考え方	26
	2 本体デザイン	27
	3 表示デザイン	32

マネジメントシステム

5 運用計画	1 ガイドラインの運用方法	39
	2 検証とフィードバック	40
	3 ICTの活用	42
	4 地上機の活用	43

■京都市における観光案内標識アップグレード推進事業計画	45
-----------------------------	----

はじめに

京都市では、「5000万人観光都市」の実現を受け、京都観光の新たな目標や、それを実現するための道筋を明らかにするため、新しい観光振興計画「未来・京都観光振興計画2010⁺⁵」を策定(平成22年3月)し、7つのプロジェクトを推進しています。

〔「歩いて楽しいまち・京都」観光案内標識アップグレード〕はその中の重点である「歩いてこそ京都」プロジェクトの重点事業に位置付けられています。「歩くこと」は環境モデル都市・京都にふさわしい、環境にやさしい移動手段ですが、京都においてその価値は、単なる移動手段であることを超えて、今なお息づくまちかどの歴史と伝統を五感で堪能できる最も贅沢な観光スタイルにほかなりません。

そこで「歩く観光客」の視点に立った「わかりやすい」そして「京都の町並みに調和した」観光案内標識を検討するため、「観光案内標識アップグレード検討委員会」を設置し、この度「京都市観光案内標識アップグレード指針」を策定しました。

今後は指針に基づいた整備を推進し、京都から全国モデルとなる観光案内標識の在り方を発信します。

観光案内標識アップグレード

内容

○ガイドラインとマネジメントシステムからなる指針の策定

- ・観光客や外国人へのヒアリング調査
- ・モデル地域における整備と有効性の検証

○指針に基づく観光案内標識の整備

基本的な考え方

- ・「歩く観光客」を対象に、「歩くこと」と「公共交通利用」の促進を目指す。
- ・京都市以外が設置する観光案内標識についても、協力を求める。
- ・ユニバーサルデザイン、外国語表記、京都の景観に調和したデザインに留意する。
- ・設置エリア、箇所についても検討する。
- ・将来的には、ICTの活用も視野にいれる。

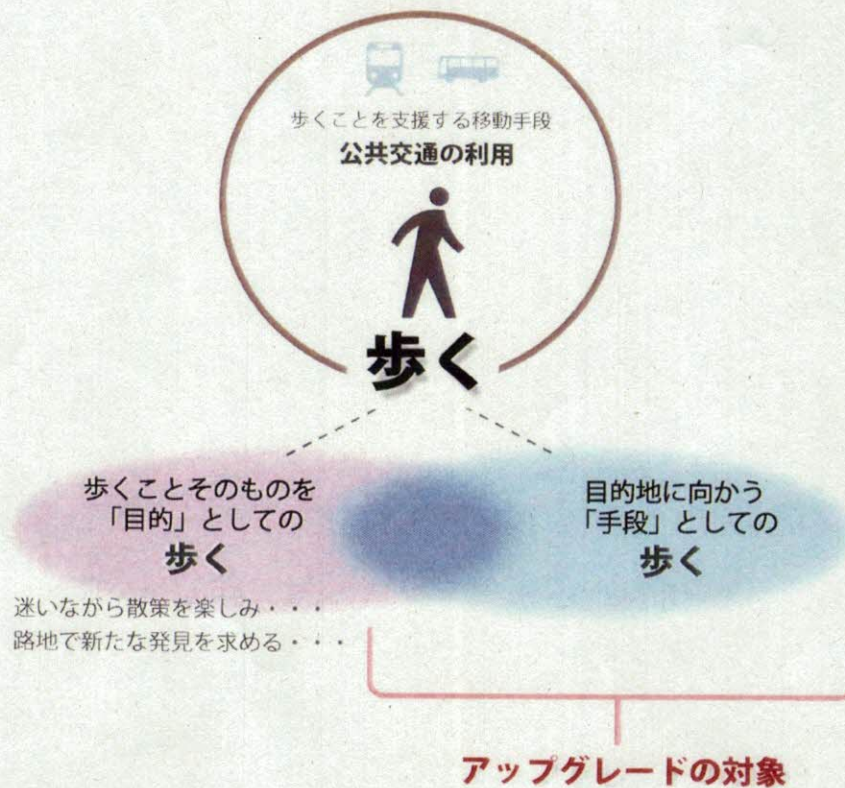
未来・京都観光振興計画2010⁺⁵

7つのプロジェクト

- 1 「暮らすように旅する」プロジェクト 【重点】
- 2 「歩いてこそ京都」プロジェクト 【重点】
- 3 「市民の京都再発見」プロジェクト 【重点】
- 4 「心で"みる" 京都」プロジェクト 【重点】
- 5 「観光客の不満をゼロに」プロジェクト
- 6 「新たな京都ファン獲得」プロジェクト
- 7 「京都の魅力うまく伝える」プロジェクト

目的

「歩く観光」を推進するため、「歩く観光客・市民」を対象に、「歩くこと」と「公共交通利用」の促進を目指す。

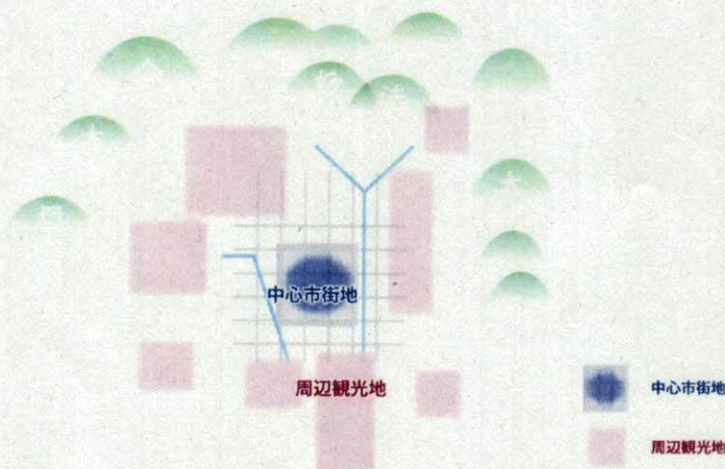


キーワード

シンプルで、わかりやすく

- 情報量がコントロールされた、わかりやすい表示
- エリアの特性に応じた機能的な配置
- 京都の景観に調和したデザイン
- ユニバーサルデザインへの配慮

京都の都市構造の概念図



京都の課題



都市構造の特徴



三山・町並み

均質な山並みや町並みにより**方向感覚**や**現在地**がわかりにくい

観光案内の課題



中心市街地

1 移動の手がかりである**通りの名称**がわからない



周辺観光地

2 目的地までの適切な**案内**、**誘導**がない



公共交通

3 **公共交通の案内**が複雑でわかりにくい

現在の観光案内標識の課題

- ① 多様な設置主体が**バラバラ**に設置している
- ② 表記内容が**統一**されていない
- ③ 表示情報が**多すぎる**
- ④ 設置位置に**問題**がある
- ⑤ **デザイン**や**景観**への**配慮**が足りない
- ⑥ **絶対数**が足りない



- ・わかりにくい
- ・京都の景観に調和していない

観光案内標識(サイン)の整備基準がない

1 サインシステム

- 1 サインシステムの考え方
- 2 計画するサインの種類
- 3 エリア別の案内, 誘導パターン

整備対象となる観光エリアを「中心市街地」「周辺観光地」の2種類に分類し、エリアの特性に応じた案内、誘導の方法（サインシステム）を考える。

エリアの概念図

中心市街地の特徴

地理的特徴

市内中心部に位置し、通りが
基盤の目状のエリア

観光客の動向

エリア全体をひとまとまり
の目的地として、観光客は
通りをランダムに移動

中心市街地

● 周辺観光地

周辺観光地の特徴

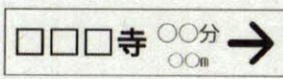
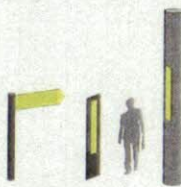
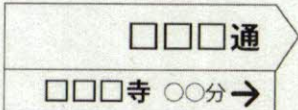
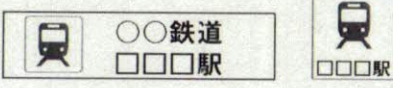
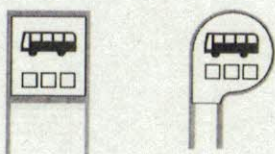
地理的特徴

市街地周辺に位置し、通りの
配列が中心市街地に比べて
不規則なエリア

観光客の動向

観光地が点在し、観光客は
目的地へのルートに沿って移動

サイン計画において対象とするサインの種類

サインの種類	役割	基本的な掲載情報
■ 案内サイン 	地形や施設を地図で表記し、目的地と現在地との関係を示す面的な情報 	・周辺の案内地図（付近/広域） ・方位（北方向/南方向） ・現在地
■ 誘導サイン 	矢印と目的地の名称を表記し、分岐点等で方向を知らせる線的な情報 	・周辺の著名地点の方向と時間 ・周辺の公共交通のりばの方向と時間 ・方位（北方向/南方向） *時間表示をベースに、板面にスペースがある場合には距離表示も補足する。
■ 通り名サイン 	通りの名称を表記し、現在位置を示す点的な情報 	・通り名称 ・方位（北方向/南方向） （場合によって通り案内や現在地を表示）
■ 複合型通り名サイン 	通りの名称を表記し、直近の著名地点を誘導する複合的な情報 	・通り名称 ・方位（北方向/南方向） ・周辺の著名地点の方向と時間 ・周辺の公共交通のりばの方向と時間
公共交通サイン 鉄道駅サイン 	鉄道名や駅名を表記し、乗り場であることを知らせる情報 	・鉄道のピクトグラム ・鉄道名 ・駅名 ・出入り口番号 ・エレベーターの位置など
バスのりばサイン 	バスのりば名や行き先を表記し、乗り場であることを知らせる情報 	・バスのりばのピクトグラム ・行き先 * ・バスのりば名 * ・時刻表 * ・路線図 * ・注意事項 ・事業者名 *「旅客自動車運送事業運輸規則」で掲載が定まっている情報

中心市街地

移動の基本パターン

公共交通拠点（鉄道駅,バスのりば）周辺の案内サインで現在地,方位,目的地との位置関係をおおまかに確認する。

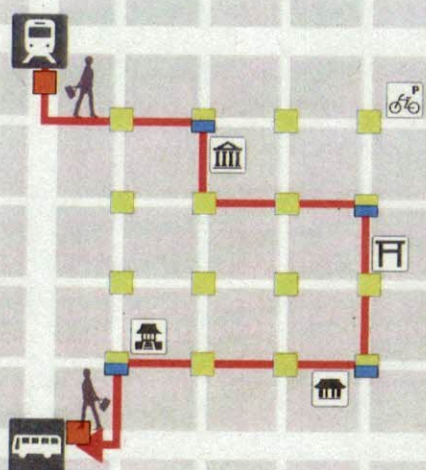


通り名サイン・複合型通り名サインと手元マップを確認しながら基盤の目状の界隈をランダムに移動する。



目的地

中心市街地



公共交通サイン



案内サイン



通り名サイン



複合型通り名サイン



目的地



徒歩ルート

周辺観光地

移動の基本パターン

公共交通拠点（鉄道駅,バスのりば）周辺の案内サインで現在地,方位,目的地との位置関係をおおまかに確認する。

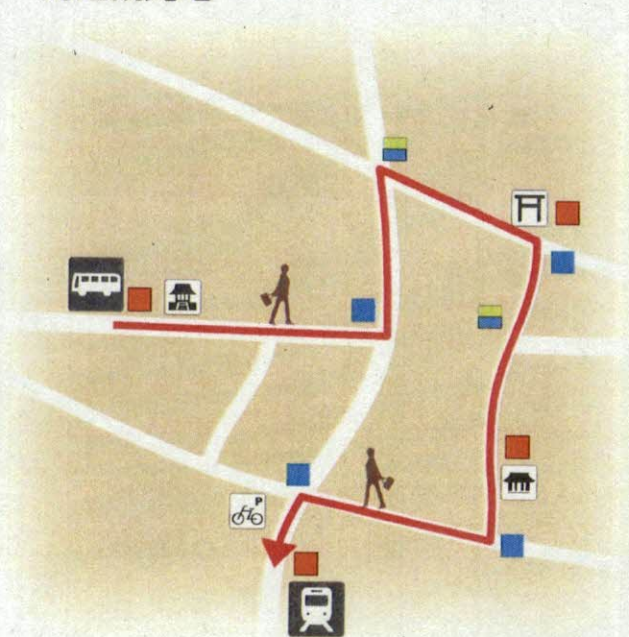


ルート上の分岐点で誘導サイン・複合型通り名サインと手元マップを確認しながら目的地を目指して移動する。



目的地

周辺観光地



公共交通サイン



案内サイン



誘導サイン



複合型通り名サイン



目的地



徒歩ルート

2 配置計画

- 1 配置の考え方
- 2 エリア別の配置基準
- 3 配置の方向の基準

利用者にわかりやすいサインの配置の考え方

利用者が多い場所への重点的な配置

- ・公共交通拠点, 幹線道路交差点, 著名地点等

エリアの特性に応じた配置

- ・中心市街地については「どこにいても通り名がわかる」配置
- ・周辺観光地については「情報が途切れない」配置

配置のルール化

- ・「交差点には案内サインがある」等

*具体的なルールについては, P12・13に示す

景観に配慮した配置

- ・町並みや自然, 歴史的景観に調和した配置

ユニバーサルデザインに配慮

- ・誰にでもサインの存在がわかりやすく, 見やすい。

中心市街地におけるサイン配置基準

(案内サインと通り名サインが中心)

	鉄道出入口	交差点	観光地直近 バスのりば	観光目的地	交差点中間部
案内サイン 		 (幹線道路交差点 原則4箇所設置)	 (主要なバスのりば)		
通り名サイン 					
複合型通り名サイン 					

*人の流れや景観に配慮し、既存のサインや現地の状況に応じて基数を調整する。

周辺観光地におけるサイン配置基準

(案内サインと誘導サインが中心)

	鉄道出入口	交差点	観光地直近 バスのりば	観光目的地	目的地への分岐点
案内サイン 		 (幹線道路交差点 原則4箇所設置)	 (主要なバスのりば)		
誘導サイン 					 (最寄の公共交通 から観光目的地へ の分岐点)
複合型通り名サイン 					

*人の流れや景観に配慮し、既存のサインや現地の状況に応じて基数を調整する。

案内サインの表示方向

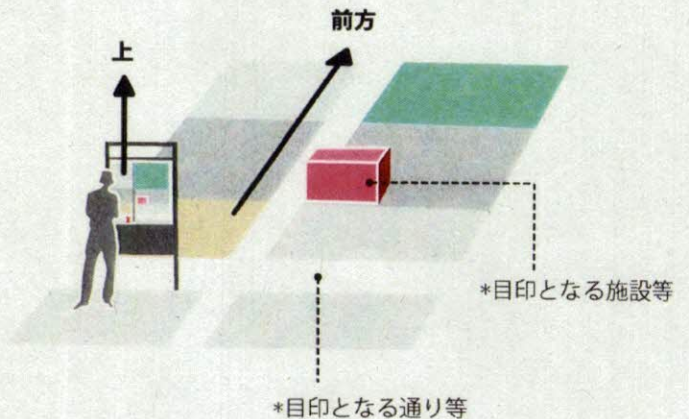
案内サインは、実際の地形と地図の表示方向を合わせる。

*前方が上であることがわかるようにする。

理由

：付近域（2Km 四方位程度）では、目印となる施設や通りと地図を見比べやすい。

：自分の立っている方向と地図の方向が一致しているのわかりやすい。



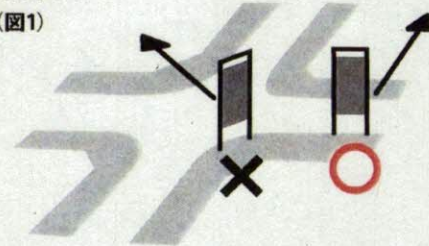
サインの設置方向

交差点部での案内サインの設置向きは、斜め設置としない。（通りと平行に設置する）（図1）

理由

：通りとの関係があいまいとなり、方向感覚がつかみにくい。

案内サイン
（図1）



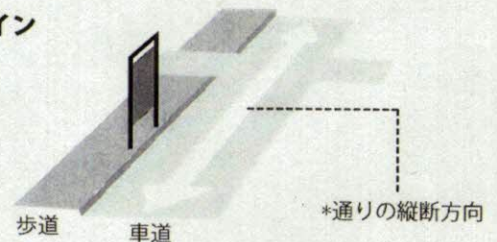
案内サインの設置向きは、通りの縦断方向に対して平行に設置する。（図2）

理由

：設置スペースを確保しやすい。（歩道幅員を狭めない）

：直近の通りとの位置関係がわかりやすい。

案内サイン
（図2）



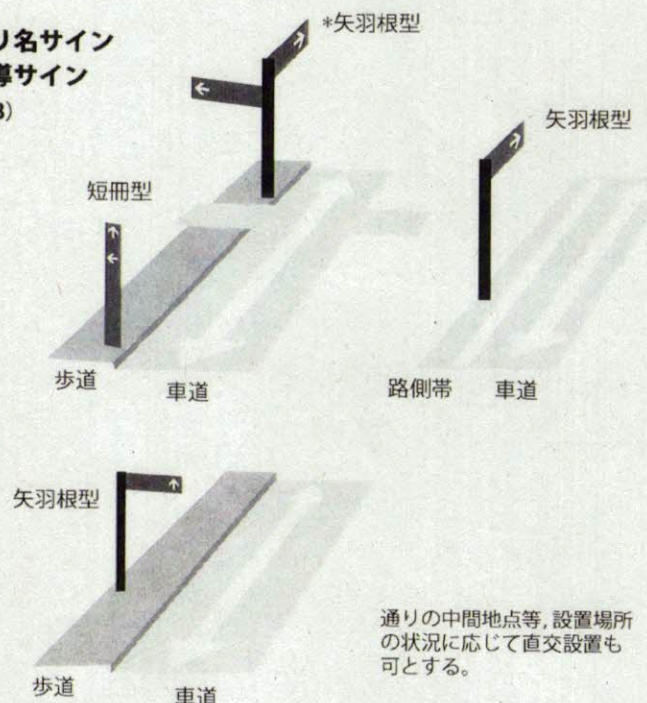
※
誘導サインと通り名サインは、矢羽根型は表示板面を目的地の方向と平行に設置する。但し、通りの中間地点等、設置場所の状況に応じて直交設置も可とする。短冊型については、通りの縦断方向に対し直交させて設置する。（図3）

理由

：矢羽根型 → 直接目的地の方向を指し示す為、直感的にわかりやすい。

：短冊形 → 表示が歩行者の目に入りやすい両面表示が可能。

通り名サイン
誘導サイン
（図3）



通りの中間地点等、設置場所の状況に応じて直交設置も可とする。